

被災地を応援するひょうごの NPO 緊急集会

19日に県連協の事務所の大家が「市民活動センター神戸 (KEC)」からの兵庫県で NPO の活動を行っている団体へ緊急集会を開催する旨の呼び掛けがありました。

呼び掛け文に被災地で活動を行っていた方が一時、関西に戻っていると事で直接、どの様な状況であったのかの報告もして貰えるとの事。

学童保育も 16 年前の全国からの支援があり、学童保育が潰れる事もなく、現在も維持できるのは先輩父母達の努力の結果だけではなく、全国の学童関係者から「兵庫県の学童…頑張れ！」との支えがあつてこそ、今があるのだと再確認する事となりました。

被災地での写真などプロジェクターでの状況は阪神・淡路大震災以上の被害である事を物語っていました。

震災前から NPO としての活動などで現地に居た方、震災と知って、現地に 0 泊 3 日で支援に向かった方…それぞれの NPO 活動で出来る限りの支援をしている事、体制を整え、継続した支援が必要だと訴える内容だと認識しました。

学童保育としては、インフラ、ライフラインが整備された後に支援が行える活動になってしまう事で、場違いな所に参加しているのではないかと…と思うぐらい、各 NPO は素早い行動を行っていました。

スマトラ沖での震災時からネットワーク (SAHANA: サハナ、オープンソース災害時救援情報共有システム) を使い、被災地情報を共有して、的確な支援を行えるネットワークが構築されたとの事で「ひょうごんテック」と云う NPO で日本語化に向けたネットワーク作りを急遽、提供し、支援を行うと話があった。

これは使える…と感じたが、日本語化途上で在ることと、オープンソースと云う事でこれからも進化しながらの状態での使用となるので共に改善点などの意見を上げて、よりよいモノへと世界へフィードバックする必要がある。

緊急集会としての流れでは、被災地に行かれた方の報告、各種団体での活動状況の報告、これから何が出来るのかと云う議論…議論は時間が無い為、余り意義のあるモノが無かったが唯一、神戸市職員も参加されており、神戸市として、支援団体への補助を開始している事、神戸市職員の派遣者を迎えに行く空バスを出すとの事で、支援物資を送るがその際に座席に余裕があれば、支援者を無料で被災地へと送ってくれる手配をするとの情報があつた。

関西テレビ社員から民主議員となった方から神戸空港で支援物資を送る為に場所の確保とスカイマークに東北での空路便に 50 個のコンテナを無償で確保する確約が出来た…との報告。

学童保育のメンバは NPO 団体でもなく、保護者達は仕事を持っている為、被災地へ支援をしたいと考えても行けないと云うのが現実であるが…只々、復興の為に頑張ってもらいたいと思うばかりである。

緊急集会に於いて、先に挙げた様に、各種 NPO 団体の特化した取り組みだけでは今回の広範囲の被災に何処まで出来るのだろうか…ちょっと、統率する組織作りが必要ではないかと客観的に考えてしまいました。

学童保育としては、一日も早く、被災地となった学校を子ども達の下に返して欲しい…その為にも NPO 団体の活動を頑張って欲しいと言える程度になってしまった事が歯がゆい気持ちになってしまいました。

震災に関する情報共有サイト：<http://japan.sahanafoundation.org/>

SAHANA(サハナ)：<http://www.sinsai.info/ushahidi/>

西宮市学童保育連絡協議会
松縄 重雄